

Nバス及びおでかけなんじいの利用状況

令和5年6月

南 城 市

1 概況

- Nバス及びおでかけなんじいの利用者数は、新型コロナウイルス感染症の流行状況によって大きく左右されており、令和3年6月～8月は両方をあわせた利用者数が300人/日前後でしたが、流行が落ちついた令和4年3月以降は、400～500人/日前後にまで利用者数が回復しています。
- なお、令和3年10～12月は利用者数が500人/日近くと多くなっていますが、新型コロナウイルスの流行の落ち着きとともに、Nバス利用券の配布により利用者数が増加しています。
- また、市内の公共交通利用者数の推移をみると、再編前は260人/日前後で推移していましたが、再編後は新型コロナの影響がありながらも、300～420人/日と100～150人/日前後増加しています。

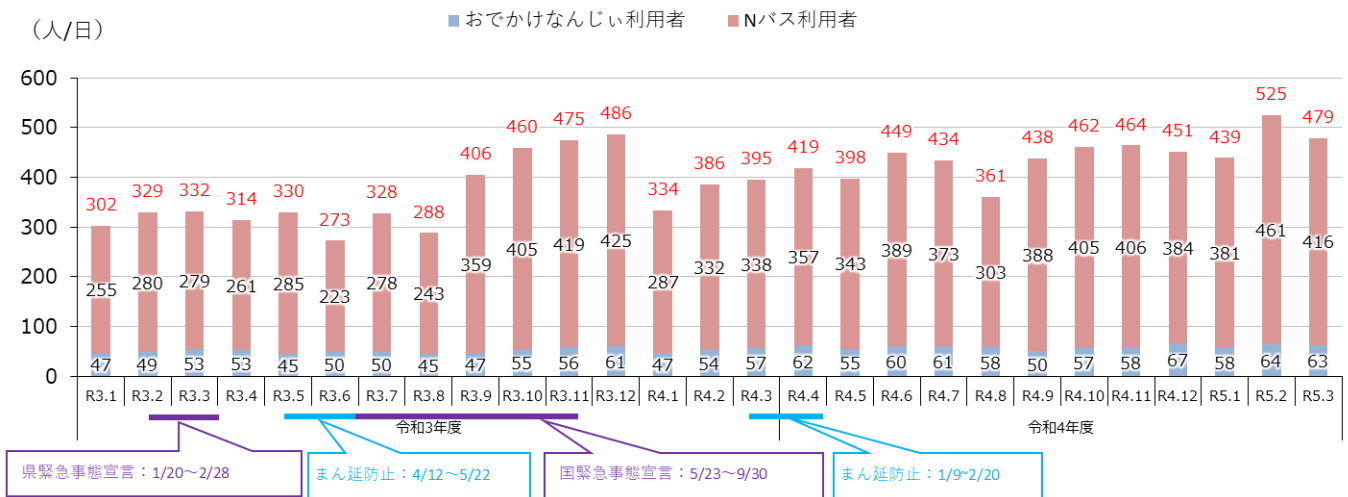
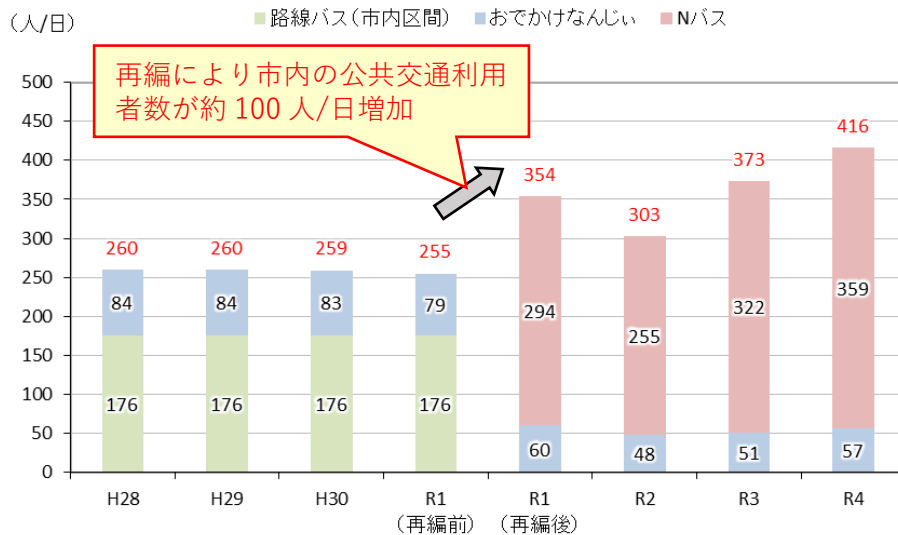


図-1.Nバス及びおでかけなんじいの利用状況の推移



※路線バスの利用者数は、H25 沖縄県調査より、市内区間のみの利用者数を整理
 ※R1(再編後)以降のデータには、路線バス利用者数は含まれていない。

図-2.市内の公共交通利用者数の推移

2 Nバスの利用状況

2.1 Nバスの運行状況

- 令和5年4月1日の運行見直しにより、C1/C2系統、D2系統、F3系統、G系統は向陽高校周辺のルートが見直されています。
- その他にも一部系統で運行時刻の変更が行われていますが、Nバスの運行便数は平日70便、休日は55便と増減はありません。

表 1.令和5年4月のNバス運行見直し内容

系統	令和4年度		令和5年度		増減		備考
	平日	休日	平日	休日	平日	休日	
A1/A2	22	20	22	20	0	0	・急行便あり ・早朝夜間便の時刻変更
B1/B2	20	20	20	20	0	0	・急行便あり ・早朝夜間便の時刻変更
B3	2	0	2	0	0	0	・変更なし
C1/C2	16	15	16	15	0	0	・向陽高校周辺でルート変更 ・昼間便の時刻変更
D1	2	0	2	0	0	0	・変更なし
D2	4	0	4	0	0	0	・向陽高校周辺でルート変更
F1	1	0	1	0	0	0	・変更なし
F2	1	0	1	0	0	0	・変更なし
F3	1	0	1	0	0	0	・向陽高校周辺でルート変更
G	1	0	1	0	0	0	・向陽高校周辺でルート変更 ・通学時間帯に合わせて時刻変更
計	70	55	70	55	0	0	

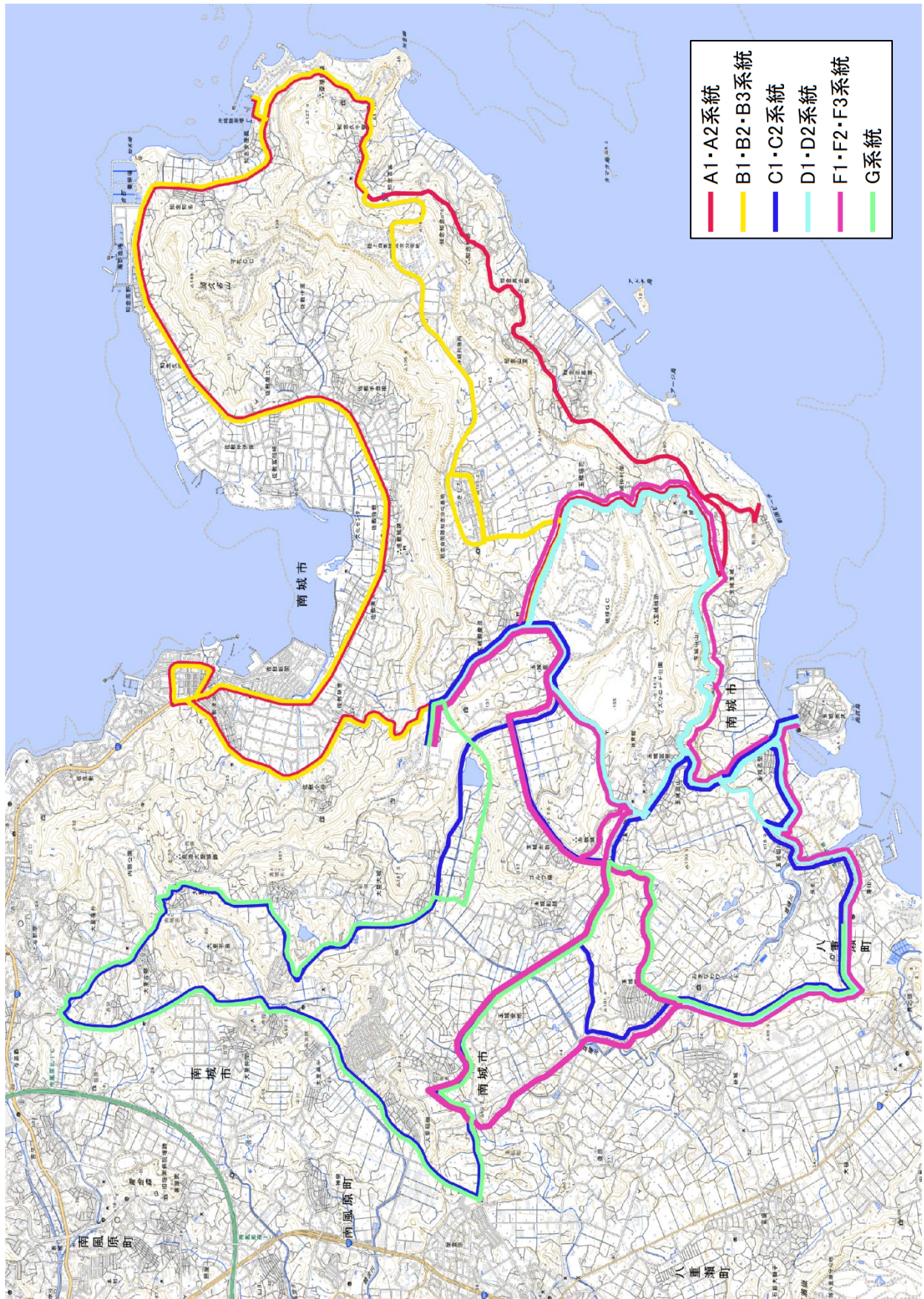


図-3.Nバスの路線図

2.2 利用者数の推移

- Nバスの利用者数は、令和3年8月までは1日当たり300人/日以下でしたが、令和3年9月以降利用者数が増加し、令和5年2月には461人/日に達しています。
- Nバス利用券の配布もあり、令和3年10月から12月は利用者が大きく増加し、特に令和3年12月は再編直後（令和元年10月）の377人を上回る425人の利用がありました。
- Nバスの運行見直しを行った令和4年4月以降は、夏休み期間の8月は利用者数が303人/日と少なくなっていますが、その他の月では利用者数が350人/日前後と、増加傾向で安定してきており、令和4年の10月、11月は、利用券を配布していた前年の同時期に迫る利用者数となっています。
- なお、直近の令和5年3月の利用者数は416人となっています。

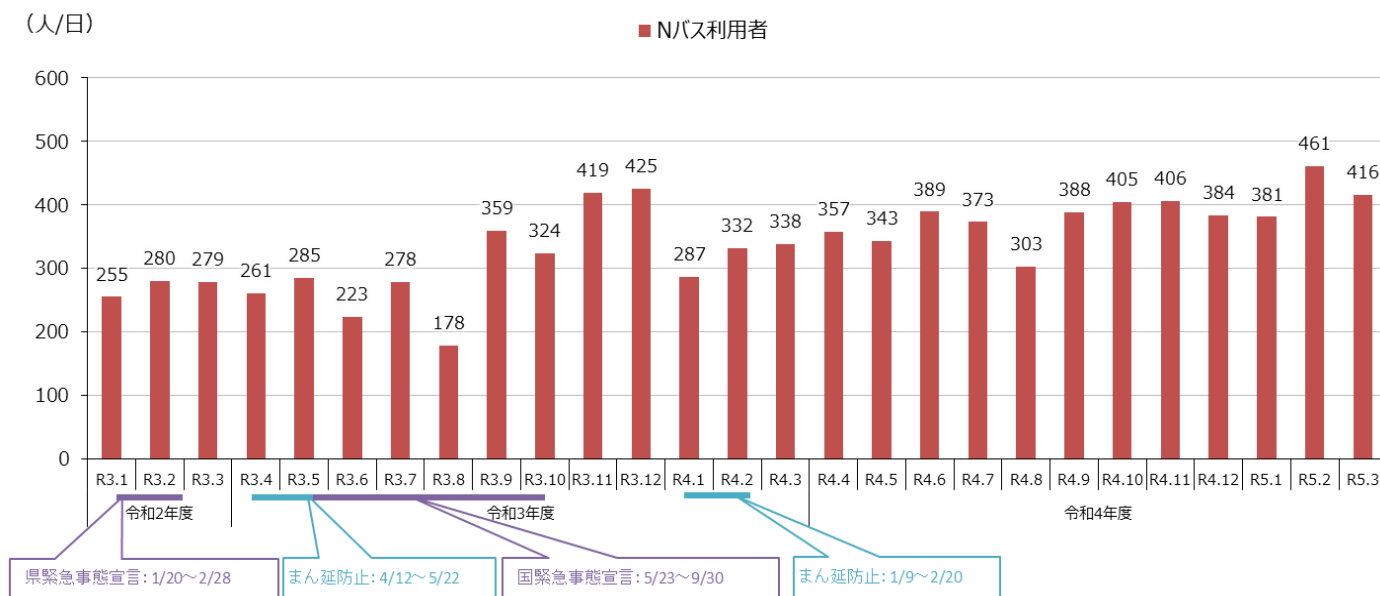


図-4.Nバス1日当たりの利用者数の推移

2.3 運賃区分別利用者数の推移

- Nバスの運賃区分別の利用者数をみると、令和4年度においては、「一般」が33%と最も多く、次いで、「高校生」16%、「中学生」15%の順に多くなっています。なお、「現金」での支払いは、支払方法の都合により一般、高校生、中学生、小学生の区別が不明となっています。
- 令和4年度の運賃区分別の利用者数の推移をみてみると、高校生、中学生、小学生は概ね夏休み期間中の8月を除くと横ばいで推移、一般がやや増加傾向で推移しています。

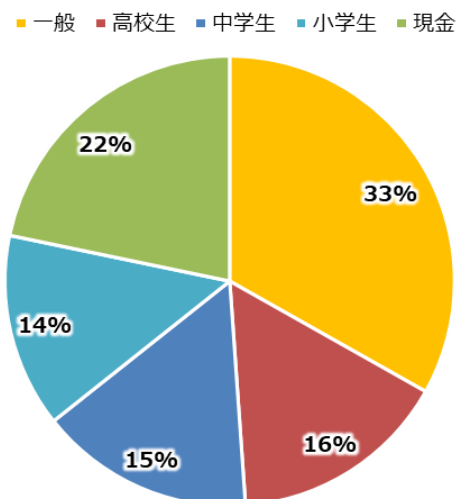


図-5.Nバスの運賃区分別の利用者数(令和4年度)

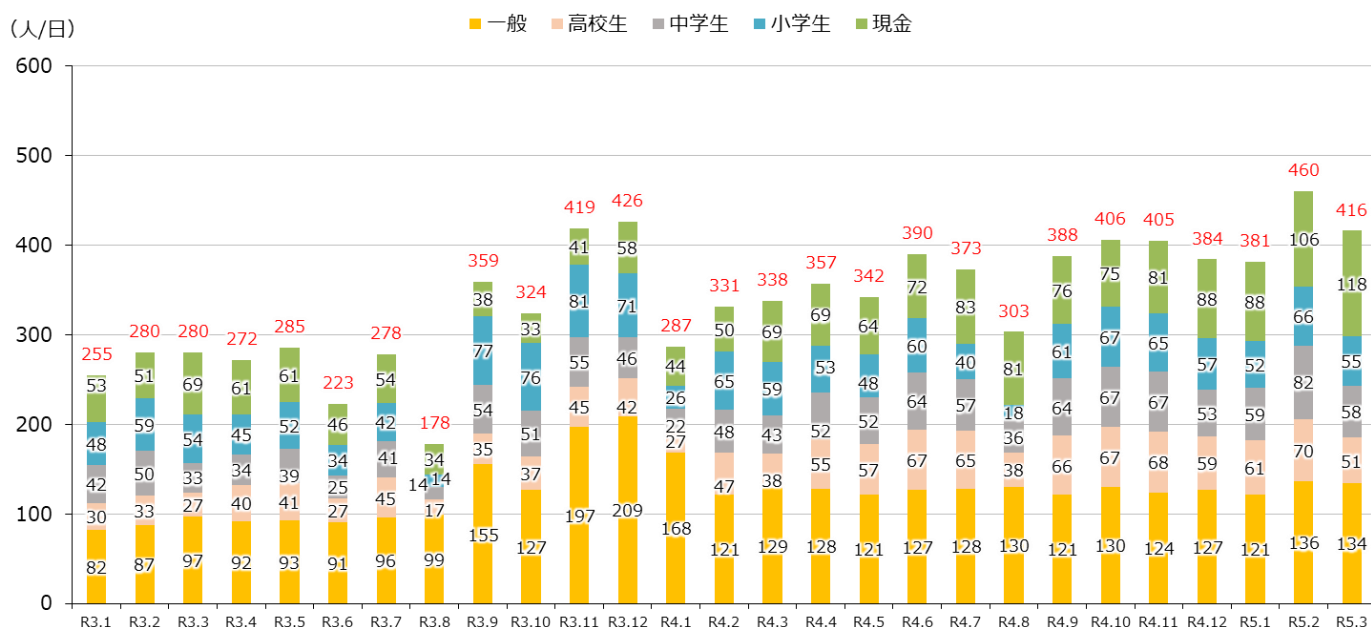


図-6.Nバスの運賃区分別の利用者数の推移

2.4 券種別利用者数の推移

- Nバスの券種別の利用者数をみると、令和4年度においては、「回数券」が55%と最も多く、次いで、「OKICA」23%、「現金」22%の順に多くなっています。
- 年代別に運賃区分別券種別の利用区分をみてみると、年代が若いほど、「回数券」の利用が多く、年代があがるにつれ「OKICA」の割合が高くなっています。
- 令和3年10月にOKICAが導入され、導入直後は約20人/日の利用者で推移していましたが、Nバス利用券の利用期間が終了した令和4年2月以降、OKICAの利用が増えており、令和4年9月以降は100人/日前後の利用があります。

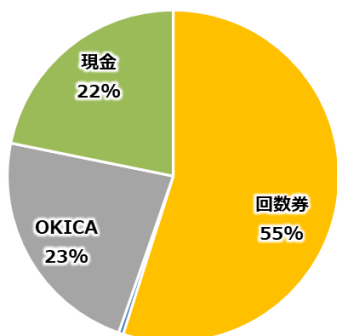


図-7.Nバスの券種別の利用者数(令和4年度)

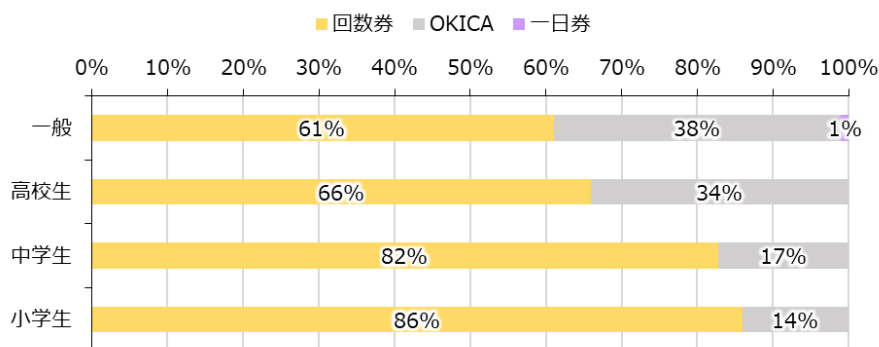


図-8.Nバスの運賃区分別券種別の利用者数(令和4年度)

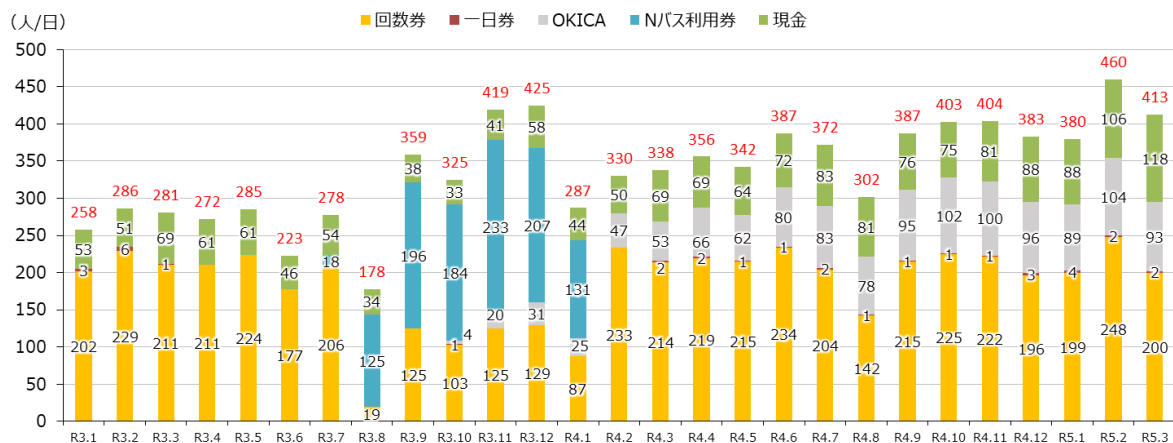


図-9.Nバスの券種別利用者の推移

※OKICAはR3.10月から導入

2.5 曜日別利用者数の推移

- 令和3年8月まで、平日は250～370人/日前後、土曜日は150～220人/日、日祝日は110～190人/日が利用していました。令和3年9月以降は、利用券を配布したことで、すべての曜日で利用者が増加しており、令和3年9月～12月の利用者数は、平日が430～500人/日、土曜日が220～250人/日、日祝日が190～260人/日となっています。
- Nバスのダイヤ改正を行った令和4年4月以降は、夏休み期間中の8月以外は、平日が440～550人/日、土曜日が190人～290人/日、日曜日が170人～270人/日と、利用者数が増加傾向で安定しています。
- 利用者数は平日、土曜日、日祝日ともに増加傾向で推移していますが、平日に比べ土曜日、日祝日の利用者数は半数程度と少ない状況は続いています。

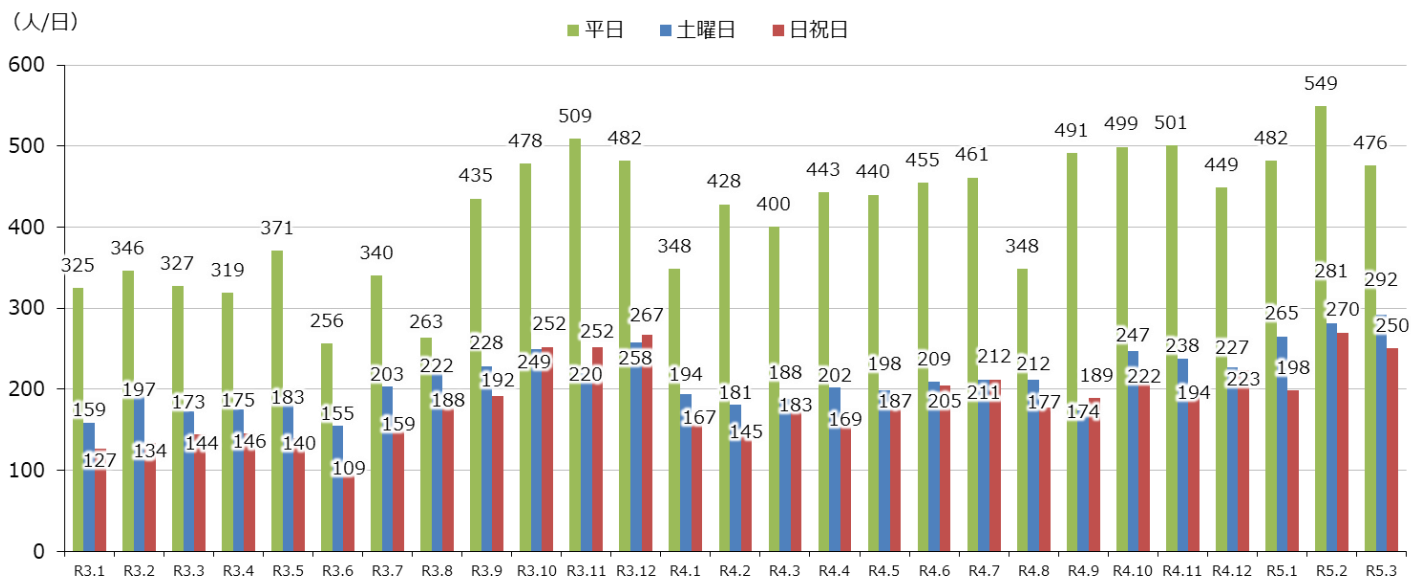


図-10.曜日別利用者数の推移

3 おでかけなんじいの運行・利用状況

3.1 運行形態

- 令和元年10月の再編以降、おでかけなんじいの運行エリアは南城市内のみとなり、また、運賃は75歳未満が500円、75歳以上が200円となっています。
- 再編後は回数券が廃止されています。
- おでかけなんじいには減便、増便等の基準を設定していますが、令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が大幅に減少しているため、これまでは、基準を適用せず、再編後の運行計画をそのまま継続しています。

表 2 現在の「おでかけなんじい」の運行形態

項目	内容	備考
名称	おでかけなんじい	
デマンドバスの運行範囲	久高島を除く南城市全域	再編前は向陽高校まで運行
利用対象	南城市を訪れる観光客及び南城市民 (年齢制限なし)	
利用料金	75歳未満は一人一律、1回500円 75歳以上は一人一律、1回200円 (未就学児は無料) ※回数券は廃止	再編前は一人1回300円(未就学児無料)、回数券あり
運行形態	ドア to ドア方式の区域運行 (フルデマンド)	
運行曜日	平日・休日(土日祝)の毎日 ※12/31～1/3は除く	
運行時間帯・運行便数	●8～20時(8時台～19時台の1時間ごとに運行) ●平日9時台～18時台、土曜日の11～15時台は3台/時運行 ●その他の時間帯は2台/時運行	再編前は、土曜日16時台は3台/時で運行
運行車両台数	最大3台(5人乗り車両、乗客4人まで)	令和元年11月以前は10人乗り(乗客9人まで)
利用方法	観光客は登録不要。南城市民は登録制で、利用したい便の30分前までに電話にて予約。ただし、8時台は前日までの予約が必要。	

表 3 「おでかけなんじい」の運行台数

曜日	時間帯											
	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時
平日	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
土曜日	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
日祝日	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

3.2 運行便数

●新型コロナウイルス感染症の影響で、令和3年度は1日当たりの運行便数が23～27便/日と変動がありました。令和4年11月以降は28～29便/日で運行便数が安定してきています。

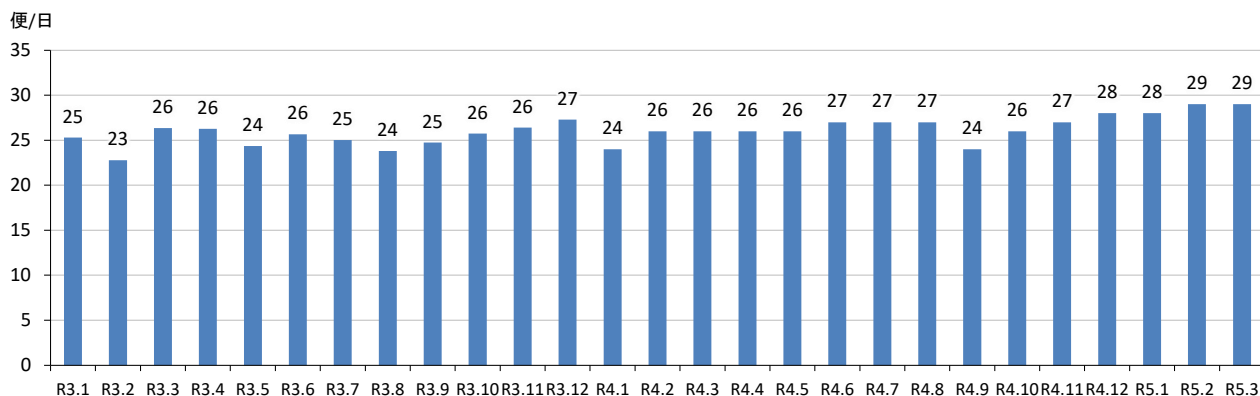


図-11.「おでかけなんじい」の運行便数の推移

3.3 利用者数

●新型コロナ禍の影響で月による変動はありますが、利用者数は増加傾向で推移しており、令和4年10月以降は利用者数が60人/日前後に達しています。

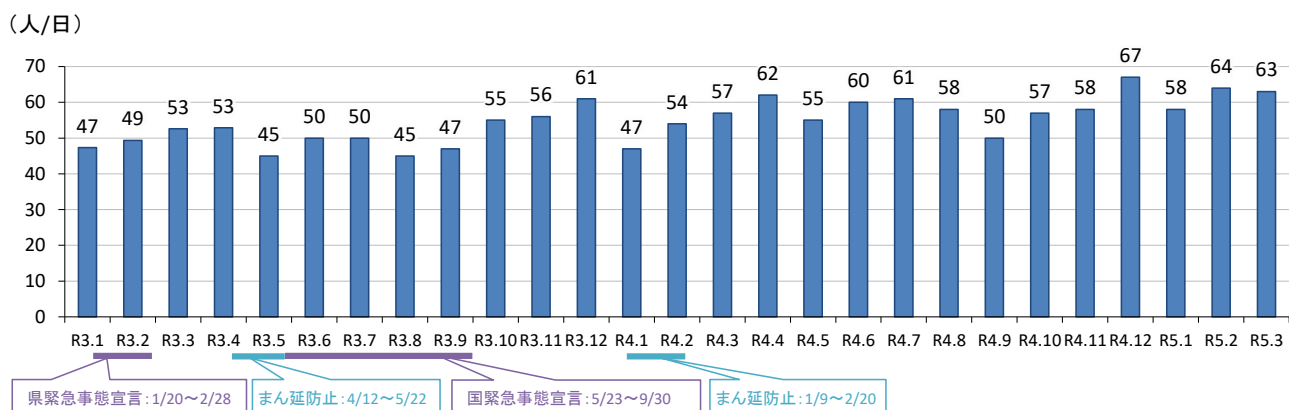


図-12.「おでかけなんじい」の利用者数の推移

3.4 曜日別の利用状況

- 曜日別の利用者数は、曜日に関わらず、新型コロナ等の影響により増減を繰り返しています。
- 利用者数が最も多い令和4年12月の状況をみると、平日の73.7人/日にに対し、土曜日は55.8人/日、日祝日は45.3人/日と、土曜日、日祝日は平日に比べ15~25人/日以上利用者数が少なくなっています。

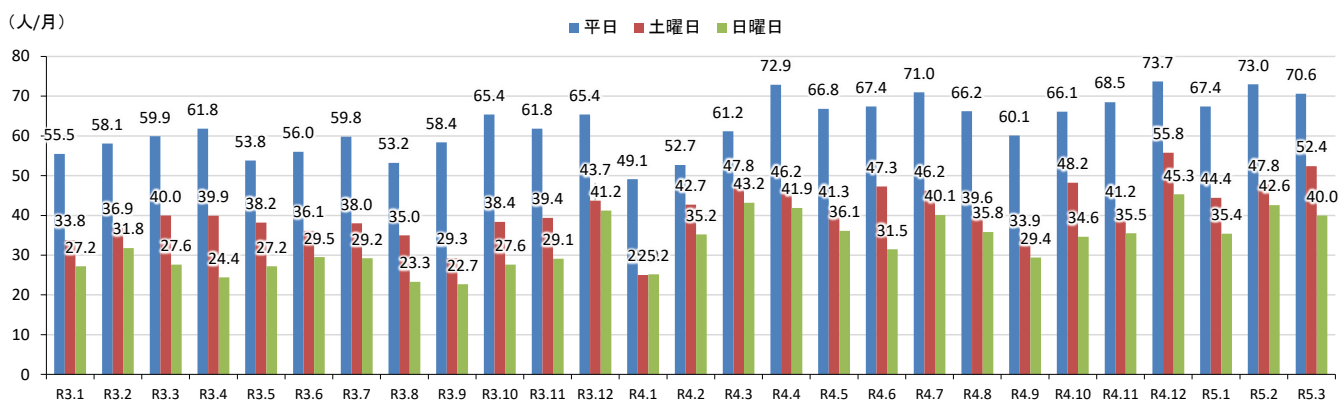


図-13.曜日別の「おでかけなんじ」の利用者数

3.5 曜日別時間帯別の利用状況

- 平日は、10時台の8.3人/時をピークに、13時台は乗務員交代のため一時的に利用者数が減少するものの、9時台から16時台において5.0人/時以上の利用があります。
- 日祝日の利用が少なく、ピークの11時台及び12時台においても4.3人/時にとどまっており、特に19時台は0.8人/時と1.0人/時を下回っています。

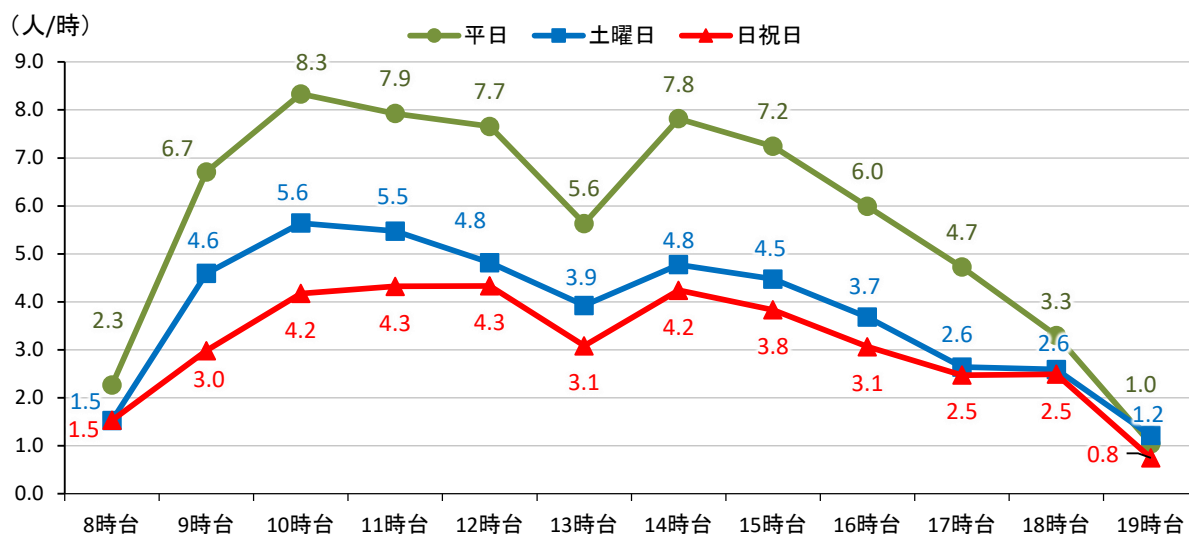


図-14.曜日別時間帯別の利用状況(令和4年度)

3.6 性別の構成

- 利用者の男女比は概ね 3 : 7 となっています。
- 4 月～6 月は男性の割合が 24%とやや少なくなっています。

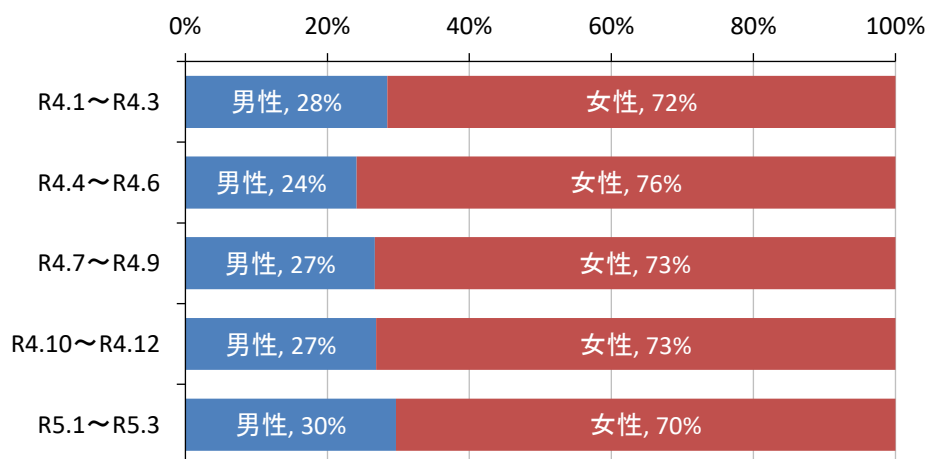


図-15.利用者の性別の推移

3.7 年齢構成

- 令和 4 年度における利用者の年齢構成は、「85 歳～」が 29%、「80～84 歳」が 28%、「75～79 歳」が 21%と高齢者の利用が多く、75 歳以上が全体の 78%を占めています。
- 年齢構成の推移をみると、大きな変化はみられません。令和 5 年 1 月～令和 5 年 3 月は、「20～49 歳」が 7%とそれ以前よりやや増加、「75 歳以上」が 74%とやや減少しています。

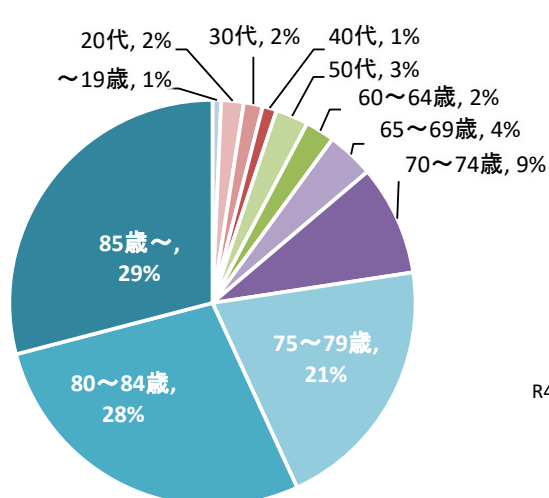


図-16.利用者の年代(令和 4 年度)

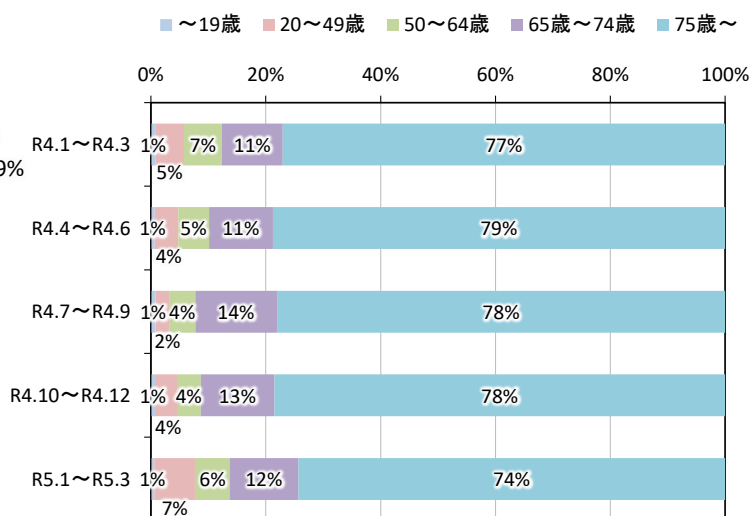


図-17.利用者の年代の推移

3.8 市民と観光客

- 令和4年度における観光客の利用者数は、1.7人/日、利用割合は3%にとどまっています。
- 四半期ごとの観光客の利用者数をみると、利用者数は少ないものの、増加傾向で推移しています。

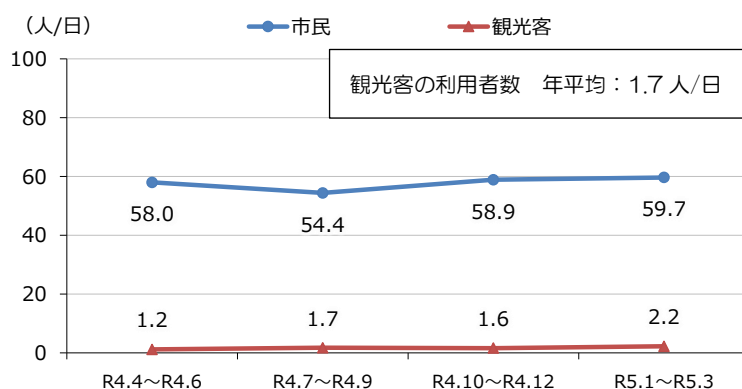
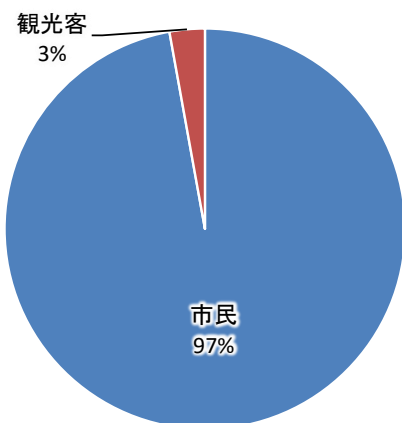


図-18.市民と観光客の構成比(令和4年度) 図-19.おでかけなんじいの市民と観光客の利用者数の推移

3.9 おでかけなんじいの実利用者

- 令和4年度における「おでかけなんじい」の実利用者数は、1,381人であり、南城市総人口の3.0%を占めています。
- 1,381人の利用者がいますが、年間の利用回数の上位18人(1.3%)で全利用の20%、上位75人(5.4%)で全体の50%を占めており、利用が特定のヘビーユーザーに偏っています。

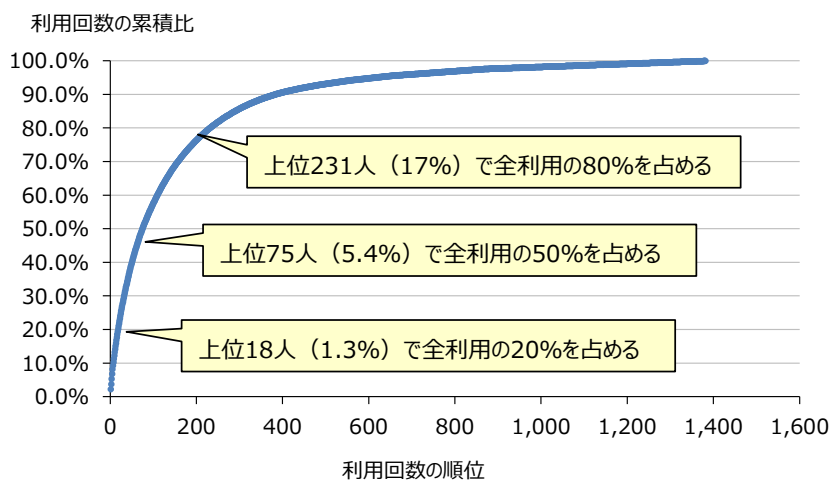


図-20.実利用者の年間利用回数の順位と累積利用回数との関係

4 令和4年度の利用状況のまとめ

- Nバス及びおでかけなんじいともに、新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じて、利用者数が増減しており、利用者数の変動が大きくなっています。
- 令和4年度は、Nバスの利用者数は350～460人/日前後、おでかけなんじいの利用者数は50～60人/日前後と利用者数が安定してきています。
- Nバス、おでかけなんじいともに土曜日、日祝日の利用者数が平日に比べ、半数程度と少なく、休日の需要喚起又は、ニーズに応じた運行計画の見直しが課題としてあげられます。

表 4.令和4年度の利用状況のまとめ

項目	内容
利用者数	●「Nバス」及び「おでかけなんじい」の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の流行状況によって大きく左右されており、令和3年度の流行期は300人/日前後、流行が落ち着き、行動制限のない令和4年度は350～460人/日前後と、最大で約160人/日の利用者数の差がみられる。
曜日別/時間帯別の利用状況	●「Nバス」、「おでかけなんじい」とともに土曜日、日祝日の利用者数が平日の半分程度となっている。 ●「おでかけなんじい」は、平日の10時台、14時台をピークに午前、午後の利用が多く、夕方は利用者数が少なくなる。
性別の構成	●「おでかけなんじい」利用者の男女比は概ね3：7で大きな変動はみられない。
年齢構成	●「おでかけなんじい」の利用者の年齢構成は75歳以上が利用者の78%を占める。
市民と観光客の利用	●「おでかけなんじい」の観光客の利用は、新型コロナウイルスの影響を受け、再編直後の2.2人/日から1.7人/日へと減少している。しかし、直近の令和4年1月から3月までは、利用者が再編直後と同じ2.2人/日まで回復している。
おでかけなんじいの実利用者	●「おでかけなんじい」の利用は、ヘビーユーザーに偏っており、実利用者1,381人のうち上位75人(5.4%)で全体の利用回数の50%を占めている。